

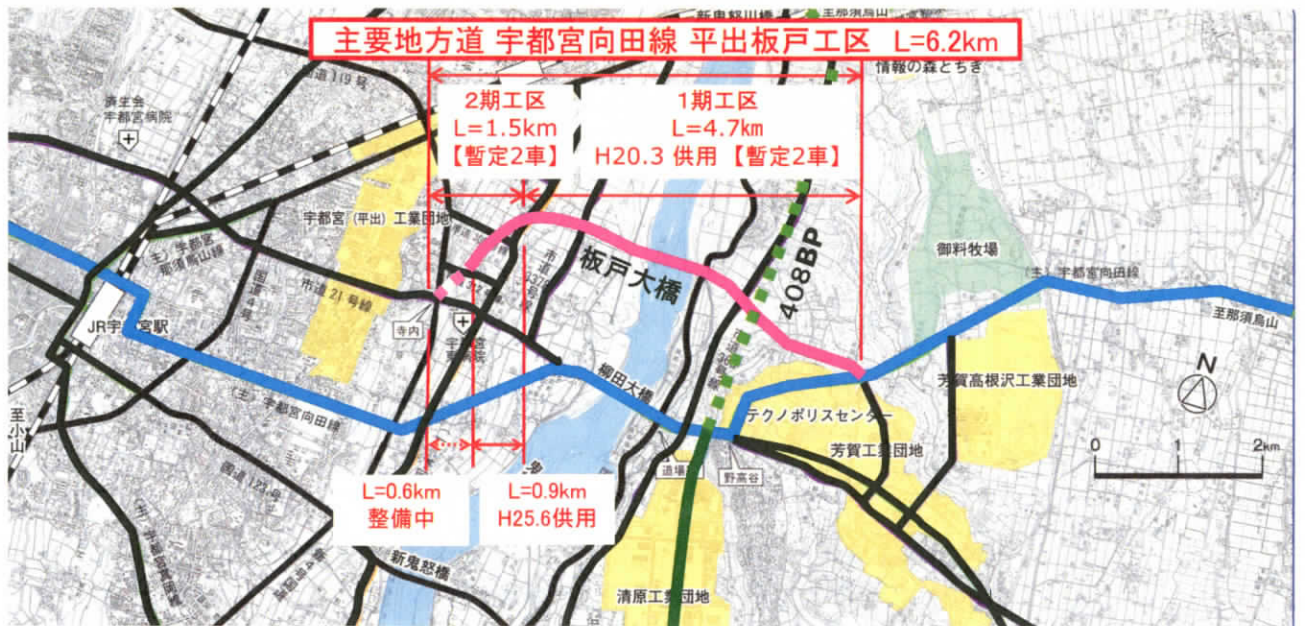
## 道路事業の再評価概要書

( )は前回評価時

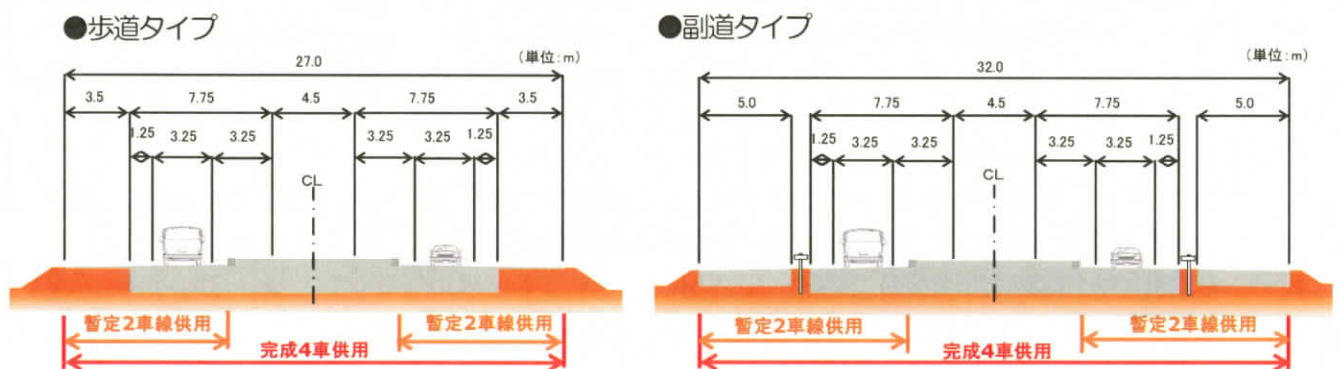
		番 号	2
		事業主体	栃 木 県
事業名	快適で安全な道づくり事業	事業所管課	県土整備部 道路整備課
路線・河川名	主要地方道 <small>うつのみやむかだせん</small> 宇都宮向田線	事業箇所名	<small>うつのみや</small> 宇都宮 <small>ひらいいたと</small> 平出板戸工区
事業区間	<small>うつのみやしひらいてまち</small> 宇都宮市平出町 <small>はがくんはがまちしもたかねざわ</small> ~芳賀郡芳賀町下高根沢	事業延長	6,200m
H14年度事業化		H14年度用地着手	H15年度工事着手
事業期間	(H27) H14年度~H32年度	事業 進 捗 状 況	基準年次：【平成28年度末時点】 進捗率
[うち用地補償費] 全体事業費	[31.7 (33.0)億円] 120.0(120.0)億円		[うち用地補償費] [30.9億円] [97%] 既投資事業費 109.8億円 92%
事業概要			
<p>主要地方道宇都宮向田線は、宇都宮市と那須烏山市とを連絡する幹線道路であるとともに、宇都宮市街地から同市東部（鬼怒川左岸地域）に位置する大規模な工業団地群（清原、芳賀、芳賀高根沢など）へのアクセスとして重要な役割を担っている道路である。</p> <p>しかし、鬼怒川を渡る橋周辺では朝夕を中心に激しい交通渋滞が発生しており、通勤通学などの日常生活や地域発展上大きな支障をきたしている。また、同地域では宇都宮テクノポリスセンター地区の開発が進められており、さらなる交通量の増加が見込まれることから、道路ネットワーク強化が急務となっている。</p> <p>このため、平成14年度から鬼怒川を渡る新たな橋梁を含むバイパス整備（愛称：「宇都宮テクノ街道」）に着手し、全体延長約6.2kmのうち、平成20年3月に新橋「板戸大橋」を含む約4.7km区間が、さらに平成25年6月に0.9km区間が暫定2車線で開通したところである。</p> <p>この「宇都宮テクノ街道」の全線開通により、本地域の交通渋滞が大きく緩和するとともに、地域の発展、地域間の交流・連携に寄与することから、引き続き残る区間の整備を行うものである。</p>			
事業を巡る社会経済情勢等の変化			
特になし			
事業の投資効果			
1 費用対効果分析結果		【総便益 (B)】	【総費用 (C)】
(1)事業全体 B/C= 2.6		410億円	160億円
(2)残事業 B/C= 4.9		66億円	13億円
2 事業の整備効果等			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通渋滞の緩和</li> <li>・宇都宮市街地から工業団地群へのアクセスの向上による地域間連携の強化</li> </ul>			
事業の進捗状況等			
1 事業の進捗状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1期工区(4.7km)が平成20年3月に供用開始した。</li> <li>・2期工区の一部(0.9km)が平成25年6月に供用開始した。</li> <li>・平成28年3月時点で残りの区間の用地取得は概ね完了しており、順次残る用地取得を推進している。</li> </ul>			
2 今後の事業進捗の見込み			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成32年度に暫定2車線供用を図る。</li> </ul>			
コスト縮減等			
1 コスト縮減方策			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・再生骨材、再生アスファルト合材を積極的に活用しコストを低減</li> </ul>			
2 代替案立案等の可能性			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・既に大部分の用地を取得しており、本計画が最適である。</li> </ul>			
事業の対応方針(案)		現計画で事業を継続する。	

# 事業箇所（位置図・概要図）

## 位置図



## 標準横断図



## 概要図





写真 1 : 柳田大橋の渋滞状況



写真 2 : 供用区間 板戸大橋



写真 3 : 供用区間 市道 312 号線交差部